

(2) 大麦
ア 殺菌剤, イ 殺虫剤, ウ 殺虫殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名											注意事項
				赤さび病	さび病	赤かび病	うどんこ病	斑葉病	網斑病	なまぐさ黒穂病	裸黒穂病	縞萎縮病	アブラムシ類		
〈 殺菌剤 〉															
イオウフロアブル	硫黄	無機殺菌	F:M02	類		類	類							類:【麦類登録】	
キヒゲンR-2フロアブル	チラム	有機硫黄	F:M03					◎	◎						
サルファーゾル	硫黄	無機殺菌	F:M02	類		類	類							類:【麦類登録】	
シルバキュアフロアブル	テブコナゾール	SBI	F:3			◎	◎		◎						
ストロビーフロアブル	クレソキシメチル	ストロベリン	F:11	類		類	類							類:【麦類登録】	
ダコソイール	TPN	その他	F:M05										類	類:【麦類(秋播栽培)登録】	
チルト乳剤25	プロピコナゾール	SBI	F:3			◎	◎		◎						
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	F:1			類	類							類:【麦類登録】	
トリフミン水和剤	トリフルゾール	SBI	F:3			類	類	類	類	類	類			類:【麦類登録】	
バシタック水和剤75	メプロニル	アクト	F:7		類									類:【麦類登録】	
パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナニド・トリフルゾール	混合剤	F:U06・3				類							類:【麦類登録】	
ベフラン液剤25	イミダクジン酢酸塩	その他	F:M07					類	類	類				類:【麦類登録】	
ベンレートT水和剤20	チラム・ベンゾニル	混合剤	F:M03・1					類		類	類			類:【麦類登録】	
ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル	混合剤	F:M03・1					類		類				類:【麦類登録】	
ミラビスフロアブル	ヒジフルメトフェン	その他	F:7	◎											
ワークアップフロアブル	トコナゾール	SBI	F:3	類		類	類		類					類:【麦類登録】	
ワークアップ粉剤DL	トコナゾール	SBI	F:3	類		類	類		類					類:【麦類登録】	
石灰硫黄合剤	硫黄	無機殺菌	F:M02		類	類	類							類:【麦類登録】	
硫黄粉剤50	硫黄	無機殺菌	F:M02		類		類							類:【麦類登録】	
〈 殺虫剤 〉															
アグロスリン乳剤	シペルメトリン	ピレスロイド	I:3A										類	類:【麦類登録】	
スミチオン乳剤	MEP	有機リン	I:1B										◎	※ 無人航空機登録有り	
スミチオン粉剤2DL	MEP	有機リン	I:1B										類	類:【麦類登録】	
〈 殺虫殺菌剤 〉															
スミトップM粉剤	MEP・チオファネートメチル	混合剤	I:1B・F:1			類	類						類	類:【麦類登録】	

エ 種子消毒法（大麦）

（ア）裸黒穂病・堅黒穂病・なまぐさ黒穂病 *Ustilago nuda*, *Ustilago hordei*, *Tilletia caries*

（温湯消毒法）

- （1）冷水温湯浸法：20℃冷水に3時間つけた後47～50℃の湯に2分間つけて温め、その後52℃の湯に正確に5分間つけて直ちに20℃で冷やす。冷水温湯浸法は温度と浸漬時間を正しく守る。
- （2）風呂湯浸法：当初湯の温度は46℃からはじめ、10時間後の温度が大体20～25℃くらいになるように蓋をして10時間つける。

オ 病害虫防除法（大麦）

（ア）さび病類 *Puccinia* spp.

（防除のねらい）

3種のさび病菌があり、黄さび病、黒さび病、小さび病が発生する。小さび病菌、黒さび病菌はこぼれ麦で越冬して伝染するとされている。窒素過多や早まきを避けるなど耕種的防除を重点とする。

（耕種的防除法）

- （1）耐病性品種を選ぶ。
- （2）適期に種子を播く。
- （3）元肥には堆きゅう肥を施し、窒素質肥料に偏らないようにする。
- （4）こぼれ麦を出さないようにする。

（イ）赤かび病 *Gibberella zeae*

（防除のねらい）

病原菌は種子やわら、稲の刈株で越冬し、開花後から葯やふの気孔から侵入する。侵入には雨が必要で、このころの多雨は発病が多くなるので、多発が予想されるときは薬剤を散布する。

（耕種的防除法）

耐病性品種を選ぶ。

（ウ）うどんこ病 *Erysiphe graminis* f.sp.*hordei*

（防除のねらい）

第1次伝染源は麦わらに残るか、地面に落ちたものである。暖冬で多雨年、日陰で風通しの悪いところに発生が多い。特に過繁茂のときは多発しやすい。病原菌は表面にのみ寄生しているので、発病初期に薬剤散布する。

（耕種的防除法）

- （1）耐病性品種を選ぶ。適期播種をする。
- （2）被害麦わらを放置しない。こぼれ麦は抜き取る。
- （3）窒素質肥料の多用を避ける。追肥時期は遅れないようにする。
- （4）厚まきを避ける。

（エ）斑葉病 *Pyrenophora graminea*

（防除のねらい）

大麦にだけ発生する。感染期は秋期発芽後の幼苗期で、春になって麦が伸長するころ発病しはじめる。本病は種子伝染性なので健全な種子を使用し、種子消毒を必ず行う。

（耕種的防除法）

- （1）無病地から採種する。
- （2）適期播種を行い、深まきを避ける。

(オ) 網斑病 *Pyrenophora teres*

(防除のねらい)

裸麦での発生が多い。斑葉病に準ずる。

(耕種的防除法)

- (1) 無病地から採種する。
- (2) 多発生地では連作を避ける。

(カ) 黒穂病類 *Ustilago nuda*, *Ustilago hordei*, *Urocystis agropyri*, *Tilletia caries*

(防除のねらい)

黒穂病類には、裸黒穂、なまぐさ黒穂、堅黒穂、から黒穂があり、いずれも種子伝染するので、消毒した無病のものを播種することが最も効果的である。

(耕種的防除法)

- (1) 無病地から採種する。
- (2) 病穂は早めに抜き取り、焼却するか、土中に埋める。

(キ) 萎縮病類 SBWMV, BYMV

(防除のねらい)

麦類萎縮ウイルス(SBWMV)は小麦、大麦、ライ麦に発生し、大麦縞萎縮病ウイルス(BYMV)は大麦のみに発生する。萎縮病と縞萎縮病は混発することも多い。播種後1ヶ月位の地温が15℃前後で降雨があると感染が多くなる。土壌中に生息する下等菌類の *Polymyxagraminis* が媒介者となって土壌伝染すると考えられる。発病するのは早春である。一度発生すると4～5年間の休作が必要であるが、発生地で連作するには耐病性品種を栽培するのが最良の方法である。

(耕種的防除法)

- (1) 耐病性品種を選ぶ。
- (2) 発病田では連作を避ける。
- (3) 遅まきし、生育を良くする。

(ク) 黄葉病・黄萎病 WYLV, BYDV

(防除のねらい)

コムギ黄葉ウイルス(WYLV)、オオムギ黄萎ウイルス(BYDV)によって成熟期前に茎葉や穂が黄化して枯れ上がる。アブラムシによって伝搬される。

(ケ) アブラムシ類

(防除のねらい)

出穂前後に雨が少ないと発生しやすい。多発するようであれば薬剤を散布する。